



第2回「釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました！

「第2回釧路湿原川レンジャー学習会」を平成30年8月7日に開催し、16名が参加しました。

今回は、しべちゃ水辺の楽校において釧路川の「水質・水生生物調査」と、七夕イベント「しべちゃ水辺の楽校祭」に参加しました。

北海道開発局による「水質・水生生物調査」について

北海道開発局では、毎年、北海道の主な河川で地域住民の方々と一緒に川の水質調査を実施しており、平成17年から釧路湿原川レンジャーも学習会として参加しています。この調査は、川の水質を参加者が直接確認することにより、川に対する関心を高めることを目的としています。なお、今年も例年どおり、標茶町立標茶小学校1～5年生の13名が参加して、一緒に調査を行いました。



位置図

しべちゃ水辺の楽校（釧路川）での調査

調査は6班に分かれ、以下の内容で行いました。

- ①「川の状態を調べよう」(川底の感触、水温、流速、透視度など)
- ②「川の水質を調べよう」(pH、溶存酸素量、アンモニウム態窒素など)
- ③「川の生物を調べよう」(川にすむ生物をつかまえて観察し、川のきれいさを判定するなど)



調査の様子

1. 川の状態を調べよう



川底の感触

2. 川の水質を調べよう



パックテスト用に水を取る様子

3. 川の生き物を調べよう



生き物をつかまえている様子



透視度の測定



アンモニウム態窒素の測定



生き物の観察

4. 調べた結果

各班の調査結果を表-1,表-2にまとめました。『人と河川の豊かなふれあいの確保』に該当する項目はBランクでした。『豊かな生態系の確保』は、「簡易水質調査」、「川の水生物調査」の項目全てがAランクとなり、標茶町に流れる釧路川は、川の中に入って遊びやすく、川の環境が非常に良好であることがわかりました。

表-1 人と河川の豊かなふれあいの確保(遊びやすさ)の調査結果

ランク	説明	ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水におい	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)
A	顔を川の水につけやすい	川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ごみはあるが全く気にならない	100以上	快適である(素足で入りたいと感じる)	不快でない	100以下
B	川の中に入って遊びやすい	川の中や水際にゴミが目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない(履物があれば入りたいと感じる)		1000以下
C	川に近づきやすい	川の中や水際にゴミがあっても不快である	30以上	不快である(履物をはいても入りたくない)	水に鼻を近づけると、不快な臭いを感じる	1000を超えるもの
D	川の水の魅力がなく、川に近づきにくい	川の中や水際にゴミがあっても不快である	30未満		水に鼻を近づけると、とても不快な臭いを感じる	

表-2 豊かな生態系の確保(生き物の住みやすさ)の調査結果

ランク	説明	溶存酸素量 DO(mg/L)	アンモニウム態窒素 NH ₄ -N(mg/L)	水生生物の生息
A	生物の生息・成育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ 等
B	生物の生息・成育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	II. 少しきらいな水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ 等
C	生物の生息・成育・繁殖環境として良好とはいえない	3以上	20以下	III. きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ 等
D	生物の生息・成育・繁殖しにくい	3未満	20を超えるもの	IV. 大変きらいな水 ・セシジユスリカ ・チョウバエ 等

☆当日採取した糞便性大腸菌群数は、分析した結果 76個/100mLでした。



生息している魚の説明を受ける様子



小学生と一緒に短冊を飾る様子



昼食 別保公園にて焼き肉で親睦を深めました

★★ 参加されたみなさま、大変お疲れさまでした。★★

観察活動の報告

報告日	報告内容
H30.7.23	動植物 (ヒグマ)

注意喚起としてヒグマに関する報告がありました。川レンジャー活動の際には、野生生物の接近などに十分気をつけてください。今後も釧路湿原川レンジャーNewsで紹介していきますので、みなさまからの報告をお待ちしております。